



「なごや歴まちびとの会」

日時 平成 25 年 3 月 2 日 (土) 10 : 00 ~ 16 : 00

『墨会館の価値と見所』講演会・見学会・展覧会 報告書

場所

墨会館：一宮市小信中島字南九反 11-1

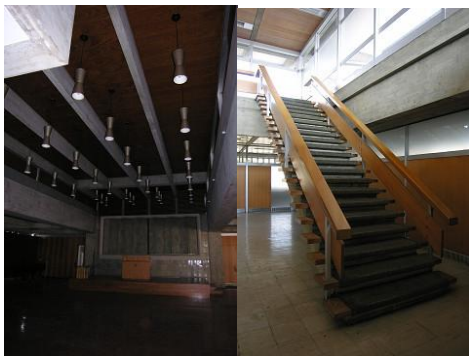
講演会：尾西商工会館

展覧会：一宮市 尾西歴史民俗資料館

社団法人 愛知建築

士事務所協会

一宮支部



社団法人 愛知建築士事務所協会 一宮支部の主催により 3 月 2 日 (土) に『墨会館の価値と見所』と題して、講演会・見学会・展覧会が開催されました。私は、見学会と講演会に参加しました。

一部の見学会は、当日 風の強い日でしたが天候には恵まれました。『墨会館』は艶金興業株式会社の事務所として使用されてきましたが、当時 東京大学工学部建築学科 助教授の丹下健三の設計で、1957 年 (昭和 32 年) に竣工しました。

敷地は、かつてノコギリ屋根の工場が隣接していたが取り壊され、現在は建物が出来た頃とは街並みも随分変わってきています。1 階は全体にわたり外部に対して閉鎖的なコンクリート壁に囲まれ、小さな開口の窓が穿かれ梁の下部に細いスリットがきられている。斜辺を西側にした三角形の敷地に南のブロックに集会施設、北のブロックには事務所施設を配し、中央は東側にポーチ・車寄せを設け西側の広い中庭との境にはテラコッタの障壁を設えています。

素材もコンクリート打ち放しと石、陶板が使用され、中庭に面した事務所の 1 階西面は開口部のサッシュの内側に黄色い障子が設けられブラインドの機能を持たせている。

受付カウンター、事務所施設の 2 階役員室の家具や壁の収納もデザインされ建築家の建物に対する姿勢が強く感じられました。

二部の講演会では『丹下健三と 50 年代の建築』を青山学院 教授・博物館 明治村 館長の鈴木博之氏の講演に続いて、早稲田大学 教授の石山修武氏との対談が行われました。

講演では、丹下健三の作品の系譜を通して思想を語った中で『旧香川県庁舎』のプランについて『阿弥陀堂』の 3 スパンの正方形の真ん中 4 本に区画されたところに祀られている点を指摘し、近代の洋風化した形に昇華している。また、『広島平和会館 (現・広島平和記念資料館)』において、厳島神社のインスピレーションが生かされている。・・・等、なかなか含蓄のある講演でした。

対談では、『墨会館』に纏わる、設備の故川合健二氏の裏話等を聞くことが出来たいへん興味深い内容でした。

(文責 なごや歴まちびと 野村 昭男)

